令和７年度　評価項目の達成及び取組状況

出雲市立大社幼稚園

分　野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評　価	評　価	
			達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。 その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評価基準により段階評価を行う。	評価基準により段階評価を行う。	自己評価及び学校関係者評価をふまえた改善策や次年度の目標を具体的に示す。
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○日々の記録、月案、学期末の学級経営案の反省などを通して、担任は学級経営を振り返った。 ○指導計画の作成や学期末の学級経営案の反省等を通して保育の改善に努めている。 ○教育目標に沿って経営を行っている。 ●指導計画や研究の取組等について、補助教諭とじっくりと話し合い、共有できる時間があるとなお良かった。	4	4	○今年度と変わらない取り組みに努めていきたい。 ○園の教育目標をふまえた経営案を計画する。 ○教育目標を意識しながら、子どもの実態把握や指導計画の作成等に取り組む。また、職員間で子どもの育ちや課題について共有する。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	○日頃から記録をとったり、職員間で話をしたり、あゆみを活用したりしながら、幼児一人一人の発達の姿を捉えた。 ○記録をとり、一人一人の育ちや課題を丁寧に捉え、援助につなげている。今年度は「人と関わる力」に焦点をあてて子どもの育ちを捉え、具体的な援助を探っていくことができた。 ○担任と情報交換しながら1人1人に応じた保育を行うことを心がけている。 ●補助の先生も含めて子どもたちの姿を話し合える時間がゆっくりととれるとよいかもしれない。	3	4	○日々の業務に追われ記録をとれないことがあったため、記録の取り方の簡素化に努める。 ○日々の記録や振り返りに努め、幼児理解を深めていく。 ○職員間で話し合う時間を大切にし、同じ思いで子どもを支えていくことができるように努める。 ◎子どもについて話ができる時間を意図的につくるのはどうか。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○日頃から職員で話をして情報共有をしたり、保護者や外部機関（保育幼稚園課、通級、小学校、保健師）と連携をとったりしてきた。 ○特別な支援を要する園児について、職員や保護者、関係機関で連携をとりながら支えた。 ○クラスの方針に沿って接するようにしている。 ●小学校就学に向けて、小学校の先生方に実際に子どもの姿を見ていただく機会が早い段階でもてると良かった。	3	3	○育ちの応援シートや個人懇談等の機会を活かして保護者と思いを共有していく姿勢を大切にする。 ◎職員が、より専門的知識を得る研修を受ける機会や時間の確保が必要である。 ◎就学相談などに向けては、両親が一緒に話し合いに参加できる機会を設けたり、外部機関とスムーズに連携をとったりすることが必要である。 ◎個別の配慮が必要な園児について全職員で共通して支援ができるように話をする時間があるとよい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○日頃から人権・同和教育の意識をもって、子ども達と接した。 ○教師自身が人権意識をもち、一人一人を大切にした関わりに努めている。また、自分の気持ちも相手の気持ちも大切であることを子ども達に知らせ、場を捉えて学級全体で考える機会を設けている。 ○自分自身が偏った見方にならないように心がけることが大切だと思った。	4	4	○教師自身が人権感覚を磨き、互いに認め合える学級作りに努める。 ○今後も「これでよいのか」という視点を持ちながらいろいろな見方や考え方についても考えていく。 ◎会計年度職員も、人権同和教育を学ぶ機会があるとよい。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○昨年のやり方を踏襲しながら、今年度のやり方を職員で考え、工夫して実施した。 ○大社ならではの行事への参加や園内行事の実施など、各行事でねらいをもち、子どもの育ちにつながる活動になるように努めた。 ○各行事を通して子どもたちの成長を感じるものとなっていた。	4	4	○過去にとらわれ過ぎず、持続可能な方法を職員が自分達で考え工夫し、責任をもって行うことが大切だと思う。 ○行事を通して子どもたちの自信にもつながるような機会にしていけるとよい。 ◎園児数や保護者・祖父母の人数が減少する中で、行事のもち方を検討していくことが必要になってくるのではないか。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○定期的に大社地区園長校長会で情報交換をしてきた。 ○保育園や小学校との交流は、学期に一回行った。 ○保育園と学期に１回交流できるように年間計画を立てたことで、子ども同士の交流や職員間の情報共有ができ良かった。 ●保幼小の職員間で連携を深め、互いの保育や授業を見合ったり、カリキュラム作成をしたりする時間が設けられる良い。 ◎小学校との交流の時間がもう少しもてるとよい	3	3	◎保・幼・小それぞれが負担にならないようにしながらも、職員同士がかかわりを持つ機会を設けられたら良い。 ◎計画的に子ども同士の交流や職員間の交流ができるように努める。 ◎小学校と交流できる機会を増やす。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○登降園時や個人懇談、連絡ノートやクラス便り、ホワイトボード等を利用して、十分にできていると思う。 ○保護者とは、登降園の時間やクラスだより、連絡帳などを活用し、関係作りに努めた。 ●ひよこランドをどのように継続していくとよいか（参加人数が減少し、活動の内容などもこれまで通りで良いのか、など）	4	4	○地域の行事（はすまつりやとんどさんなど）に参加する。 ◎保護者が気軽に相談できる雰囲気を持てるように、誰にでも日頃から声をかけることを心がける。 ◎日御碕地区との交流。 ◎ひよこランドの開催をどのような方法にすると良いか検討していく必要があるかもしれない。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○常勤の職員は、研究主任を中心に定期的に研究について話し合った。 ○園内研の実施や西ブロック交流保育等を通して、保育構想や教師の援助について学びを深めることができた。 ○研修会には積極的に参加をするようにし、自身の知識、技術の向上に努めている。	4	4	○積極的に研修に出かけ、自己研鑽に努めたり、学んだことを職員間で共有したりするにする。 ○今後も研修には積極的に参加をし、子どもたちへの保健指導にいかしていく。 ◎補助教諭と話し合いをする機会が設けられるとよりよい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○少ない職員数で声をかけ合い、協力しながら園務を遂行できた。 ○限られた人数の中で協力しながら園務を行っている。 ○他の職員と声を掛け合いながら園務を行うことを心がけている。 ●時間外をとらないと園務が遂行できない状況である。	3	4	○みんなで声を掛け合いながら行っていく。 ○職員間で声をかけ合い、見通しをもって園務に取り組む。 ◎時間外が多いと言われるなら、教頭を専任して常勤職員を増やすべきである。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○定期的に避難訓練を実施したり防犯教室を実施したり、安全衛生管理を行ったりした。 ○定期的に避難訓練を実施したことで、災害時に子どもも職員も落ち着いて対応することができた。 ○避難訓練を定期的に行い、改善点などの見直しをしている。 ●地震など、自然災害時には訓練をしていてもその通りに行動ができない場合が多く、職員同士でも声を掛け合いながら対応していくことの大切さを感じた。 ◎１月６日の地震の際には園庭に避難したが、第２避難場所の大社小に避難することも想定する必要があったかもしれない。 ◎園舎南側から避難できるように、避難経路の確保が必要であると考える。	3	3	○引き続き避難訓練を実施したり、緊急時の対応について職員間で共有したりしていく。 ○避難訓練の定期的な実施。 ◎大社小への最短避難経路として、園庭南側から避難できる経路を早急に確保するべきである。 ◎衛生管理などは４月に確認するだけになってしまいがちなので、学期はじめや感染症が流行する頃に確認するとよいのではないか。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・設備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○毎月安全点検を職員が行い、遊具等の安全確認を行った。 ○定期的に安全点検を行っている。また、異常箇所については、教育施設課に連絡し、対応している。 ○定期的に施設の点検を行い、修繕が必要な箇所があれば、その都度施設課に報告をしている。 ●ブランコの修理を早急にしていただけるとありがたい。 ◎教育施設課の迅速な対処のおかげで、雨漏りや破損している箇所の修繕をしてもらえたが、老朽化が進んだ園舎であるため、今後も教育施設課とは連携していく必要がある。	3	3	○幼稚園の全体的に老朽化が進んでいるため、今後も教育施設課と連携しながら、早急に対応していけるようにしていきたい（ブランコなど）。 ○毎月の安全点検を継続して行う。園舎・遊具等の老朽化が進んでいるため、教育施設課と連携して対応していく。 ○今後も定期的に点検を行い、危険な箇所などがあればすぐに報告をしていく。

※評価基準　４：十分達成している　３：概ね達成している　２：改善を要する部分がある　１：大いに改善を要する